

研究・調査報告書

報告書番号	担当
138	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Milk consumption during adolescence decreases alcohol drinking in adulthood. 青年期でのミルクの消費で成人期のアルコール飲酒が減少する	
執筆者	
Pian JP, Criado JR, Walker BM, Ehlers CL.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pharmacol Biochem Behav. 94(1):179-185 (2009)	
キーワード	
アルコール依存症、アルコール、ミルク	
要 旨	
<p>成長の早い時期でアルコール消費を開始することは、アルコール依存性への進展の危険性を高める。青年期に、他のかなり美味な飲料を摂取することで、成人期でのアルコール飲酒に影響があるかどうか知られていない。この研究の目的は、青年期で摂取した次の4種類の飲料(水、ショ糖、ショ糖-ミルク、ミルク)が成人期でのエタノールの摂取に効果があるかどうか検討することである。出生後29~51日の間、ラットは限定した時間に1種類の飲料を摂取させ、続いてショ糖 fade-out 法を用いてエタノールを自己摂取するよう訓練した。</p> <p>青年期にショ糖またはショ糖-ミルク溶液を摂取したラットでは、(ショ糖 fade-out 法での)10%ショ糖と2.5%エタノールの組合せ溶液の摂取が増加した。しかし、10%エタノールのみ摂取量に影響はなかった。青年期にミルクとショ糖-ミルクを摂取したラットでは、10%エタノールと10%ショ糖の組合せ溶液の消費が有意に減少した。また、青年期のミルク摂取では10%エタノール溶液のみと10%エタノールと5%ショ糖の組合せ溶液の消費が有意に低下した。</p> <p>この研究の結果は、青年期でのショ糖の曝露は成人期でのエタノール消費を増加し、一方、青年期のミルクの曝露は成人期でのエタノール消費を低下させることを示している。また、このことは、アルコール依存症の早い時期での予防という観点から、新たな治療法の可能性を示すものである。</p>	